



2月15日 涅槃会

寒さはまだまだ厳しいですが、
春の声を聞く頃となりました。

梅やサンシュ、万作など次々にほころび始めると
冬もようやく終わりを告げます。
皆様、いかがお過ごしでしょうか。

この冬、お寺では池の鯉が獣に荒らされてしまい、
淋しくなっていました。が
水がぬるみ、魚上氷（うおこおりをいずる）と言われる頃
お釈迦様入滅の日を迎えます。

この日、お寺では本堂に涅槃図をおかけします。



願わくば 花の下にて春死なん そのきさらぎの もちづきのころ（西行法師）



涅槃図をよく見ると、
沙羅林の上空にも満月がかかっており、
お釈迦様が十五夜満月の日に
お亡くなりになられたことを示しています。
涅槃に入られたお釈迦様のまわりでは、
菩薩様方や比丘、比丘尼、天界の神々、鬼など
五十二衆といわれる人々が集まり嘆き悲しんでいます。
この一枚の涅槃図の中に込められた物語を
ちょっと垣間見てみましょう。

やさしい涅槃図絵解き

お釈迦様のお母様 まやふしん 摩耶夫人の「五衰の相」

涅槃図右上の方から雲に乗って下界に下りてきているのが摩耶夫人です。
今回は、下界に下ってくる前に摩耶夫人に起こった不思議なお話です。

摩耶夫人はお釈迦様ご誕生後、7日目でお亡くなりになり
切利天（とうりてん）という天上界にお住まいでした。
天上界は、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道輪廻のうち天人の住む世界です。
この世界には、人間界と同じように一人ひとり寿命があります。
「五衰の相」と言われる兆候があった後、
天上界から去らなければなりません。

さて、お釈迦様が80歳を迎えられると、
摩耶夫人にこの「五衰の相」が現れました。

「五衰の相」とは、

- ①天人の華冠がしおれ始め、輝きがなくなる。
- ②両脇から忽然として汗が出る。
- ③天人は自ずと体が輝いており、影があることはないのに影が生じる。
- ④天人は目をまばたくことがないのに、両目をしばしばまばたく。
- ⑤他の天人と一緒に楽しんでいる時に、共に楽しむことができない。



こうした「五衰の相」を自覚した摩耶夫人は、
お釈迦様のご入滅を察知されます。
その後、深い眠りに入ります。
その眠りの中の夢の話は、また来年としましょう。

大智寺だより

平成 29 年 如月
Vol.82

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去のすべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

1月号発行部数
200部

ご愛読

ありがとうございます



かんざしで建てられた大智寺鐘楼

大智寺の鐘楼は屋根のカーブが美しく、すっかり景色に溶け込んでおり大晦日にはいつも変わらない音色を響かせています。
この年始にもお参りのお客様に鐘楼のことを尋ねられ、お檀家様でもこの鐘楼が女性のかんざしで建てられたことを知らず驚かれた様子でしたので、ここでご紹介します。

大智寺の鐘楼は江戸時代 文化2年（1805年）2月24日 永瀬金七の娘（蓮臺浄香大姉）の菩提を弔うため上棟されました。
当時、この娘が寄進したかんざしで鐘楼は建てられておりかなり裕福なお家柄のお嬢様であったことがうかがわれます。
これからも大切に守っていければと思います。



岐阜県 里山林整備事業

大智寺の周辺は近年、池の鯉が荒らされ庭を荒らされ野生動物の被害が目立ってきており、
岐阜県の里山林整備事業をお寺でもご依頼する方向で検討しています。

岐阜県の里山林整備事業とは、
野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や、生物多様性の保全を図るため、里山林の整備・管理に必要な費用を岐阜県が支援してくれる事業です。
昔は地域の方々がお寺の山のまつごかきをして下さっていたという思い出話を時々うかがいます。
こうして山の整備に公のご理解があるというのは、ありがたくもったいないことと思います。
岐阜県の山々が少しずつ元気になればと思います。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)

お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc
わからないこと 質問帳 ②

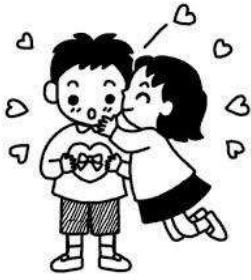


「大智寺の大般若札に祝祷寶牘って書いてあるけど、何て読むの？」

大智寺ではお正月に大般若祈禱をしたお札をお檀家様はじめご希望の方々にお渡ししています。
このお札の正面には「祝祷寶牘 大智寺」と書かれています。
「しゅくとうほうとく だいちじ」と読みます。
「祝祷」とは御祝いの祈禱、つまりお正月の大般若祈禱を表しています。
また「寶」は宝という漢字の旧字体、そして「牘」は木札、お札を意味しますので「寶牘」とは、宝のお札を表しています。

先月の大般若会は、大きな寒波の影響で雪となりましたが足元の悪い中、近隣の和尚様方にご来山賜り無事ご祈禱を行うことができました。
また、お台所お手伝いの方々の中には徒歩でお見えになられた方もあり朝早く食事の準備から後片付けまでお世話になりました。
総代様をはじめ世話役の方々には、何度も台所と本堂を往復しおうどんを運んでいただき、食事の後にはお焚き上げのお手伝いもしていただきました。
近くの農家様には、おうどんの薬味に使うおネギを分けていただきました。
たくさんの方々のお力があって、ご祈禱させていただいた大般若札です。
玄関付近にお貼りいただき、今年の魔除けとしていただければ幸いです。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31 ページより

③2

「^{よもぎ}蓬が^{もと}根の^{ちり}塵となる ^{そうあくにん}造悪人の^{さいご}最後には」

空海、橘逸勢と共に三筆の一人に数えられる嵯峨天皇の奥様（橘嘉智子皇后）は世に類なき美女であったといわれるお方です。
この方は仏教への信仰が篤く、嵯峨野に日本最初の禅院 檀林寺（だんりんじ）を創建したことから檀林皇后と呼ばれ人々に親しまれていました。

皇后は、お亡くなりになる時に

「私が死んだ後、私の体は野に棄てよ。色欲におぼれる者は肉体の醜い変化を見て警護すべきとおっしゃり、淫欲に溺れ、形あるものに執着する人々を戒めました。

実際皇后の肉体が朽ち果てていく姿は、死後間もないものから遺骨が土に還るまで9回に分けて描かれ 仏教絵画「檀林皇后九相観図」と題され今に伝えられています。

儚しや 朝夕なでし黒髪も 蓬がもとの塵とこそなれ （檀林皇后）

皇后の建てられた檀林寺は皇后没後急速に衰え、平安中期には廃絶しましたが、その跡地に天龍寺が建てられ、夢窓疎石がその思いを引き継ぎ営みました。皇后の尊いお気持ちは今も変わらず私たちの心を戒め、仏道精進へと導いています。

今更のついで

寒中はさすがに冷え込みましたが、もう春の声を聴く頃となりました。皆様、悪い風邪など引かれていませんか？

さて今までの大智寺だよりをお墓の前で皆様に取って頂けるよう、百円シヨップで買って来たプラスチック製の書類用ケースを水小屋の壁に釘で打ち付けて、大智寺だよりを入れていました。けれど、太陽にさらされプラスチックが割れること数え切れず（涙）そのつど新調してきました。ようやく先月、重い腰を上げて慣れぬ大工仕事でポストもどきを作りました。というかつっこいいですが、夏に頂いたお素麺の本箱を細工しただけ（笑）これでは寂しいから色を塗ろうと買物に行くと、ペンキやラッカー、マスキングスプレー色々あり、違いがわからず一番安いマスキングスプレーを購入。なんだか服も手も白くなりながら色付けしました。後で調べるとどれも中身のペンキは変わらないものの吹き口が異なり、マスキングスプレーはメガホン状にペンキが飛び散り、塗りのムラが出るのよ。物を必ずひとそろえに調へんとするは、つたなき者のすることなり。不具（不揃い）なるこそよけれ（吉田兼好）
姫路城の屋根瓦も、あちこち家紋を逆さに描き、わざと未完成にして、これからの発展の余地を残しているのだとか。
ものは言いようですが、まあ塗りムラだらけのポストもゲン担ぎになるといいなあ（笑）

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

普通の食材でかんたん 油揚げのみぞれ煮

- ① 油揚げ30gは食べやすい大きさに切り、熱湯にくぐらせ油抜きする。
- ② 水100ml、薄口しょうゆ大さじ半分、酒小さじ半を熱して、油揚げを入れ、含め煮する。
- ③ 大根100gをおろして、軽く絞り煮汁に加え、みぞれ煮にする。
- ④ 器に盛り、三つ葉を飾りいれて出来上がり。



油揚げと大根は炊き合わせてもおいしいし、少し目先を変えてみぞれ煮にしてもおいしいです。油揚げは油抜きして含め煮すると、だし汁をよく吸って本当においしくなります。寒い日に温かいみぞれ煮をどうぞ。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

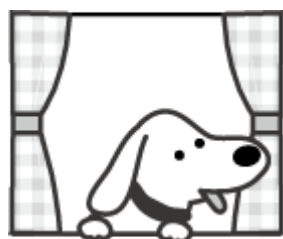
初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

2月26日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

1月写経会 備忘録

大寒に入り、今にも雪がちらつきそうな日曜日寒さに負けず、大勢の方にお越しいただきありがとうございました。今回は所用のため読経後住職は不在となり楽しいお話はまた次回となりました。今年一年のご多幸を祈って毎年恒例のご祈祷まめ玉を皆様にお配りしました。今年もどうぞよろしくお願い致します。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第二話 「お釈迦様の教えを後世に」
マハーカッサパさん



大智寺本堂の正面、お賽銭箱の上の方に
「拈華室」と書かれた木製の額があるのはご存知ですか？

さて紀元前のお話、いつものようにお釈迦様の説法を聞こうと大勢が集まる中、
霊鷲山に現れたお釈尊様は、一言も発することなく黙って華を拈(ひね)り
その日の説法は、おしまいとなりました。

せっかく集まった人々は、何の意味だかわからないまま解散しましたが
マハーカッサパさんだけがその意味を理解し破顔微笑したため、
お釈迦様はマハーカッサパさん(魔訶迦葉尊者)を後継者としました。

この伝説を「拈華微笑(ねんげみしょう)」といい、
大智寺本堂に掲げられている「拈華室」の「拈華」は
この逸話に由来しています。

お釈迦様がお亡くなりになって90日余りたった頃、
このままではすばらしいお釈迦様の教えが後世に誤って伝えられる恐れがあると
仏教の行く末を案じたマハーカッサパさんは、
お釈迦様の御弟子を500人選抜し七葉窟というところに召集しました。(第一結集)
そして、ここで仏教教団としての戒律と教え、いわゆるお経が確立されました。
けれどこのお経が文字にされたのはもっと後のことです。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上 ご来山ください。